

職員による自己評価

A環境面

指導訓練室は広いスペースが確保されている。バリアフリーについてもほぼ対応できている。

職員配置は基準をクリアしている。

B児童への支援内容

毎日の打合せ、振り返りに全職員をそろえることは難しく、職員全体の共有課題とすることに時間差が生じてしまう傾向がある。

C関係機関との連携

相談機関の利用が進んでいないためサービス担当者会議の開催についても今後の課題と考えている。

学校との情報共有や対学校間の連絡は密にとれている。

D保護者への説明責任・信頼関係

契約時の説明、日々のコミュニケーションを大事にしている

E非常対応

マニュアルの周知が不十分
避難訓練は全曜日実施できた。

保護者による評価

A環境面

施設面の評価は高い。職員の配置基準についてわからないとの回答がみられる。

B児童への支援内容

適切な支援との評価はおおむね頂いているが障がいのない児童との交流についてはわからないという回答が多かった。

C事業所からの情報発信

個別の情報発信については高評価が得られたが、会報やホームページについてはどちらともいえないという回答が多かった。

D非常対応

マニュアル、避難訓練いずれも認知されていない傾向にあった。

※設問に対しわからないという回答が目立った。



事業所内での分析

【共通点】

- ・活動スペースが広くバリアフリー化されている点の評価
- ・各種マニュアルの周知を保護者に行っていない
- ・事業者回答にどちらともいえない、保護者回答にどちらともいえない、わからないとの項目選択が比較的多かった。

【相違点】

- ・障がいのない児童との交流について小学生ボランティアとして地域の小学生に参加してもらっている
- ・避難訓練を行ったが保護者に周知されていない

分析・検討してみて…

事業所の強み

建物が障がいのある児童に対応でき、近くの公園、畑など緑のなかで過ごせる環境、隣接する同法人（社会福祉法人）の資源の活用などの特色が挙げられる。

事業所の改善点

個別の対応でのコミュニケーションは日々の対応としてできているが、マニュアルの提示がなされていない、行った避難訓練が認知されていないなどが問題点としてあげられる。また、ホームページが周知されていないことに加えて情報発信のツールとしてまだ活用が十分でない。

事業所の改善への取り組み

どちらともいえない、わからないという回答の中にはきちんと伝える必要のある項目も含まれている。

また、どのような視点で事業を行っているか知っていただくことで安心や信頼を得られる項目もある。

平成 29 年度は事業所の立ち上げの一年で足りないことが多々あったかと思う。ホームページも年度内によく立ち上げることができた。

平成 30 年度はまだ不足の基本的情報をホームページを利用して発信していくことを課題とする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

開所の 1 年目として今まで利用しづらかったお子様に利用していただく、子育ての大変さを少しでも共有したい、という視点で利用いただけてきました。また、お子様には事業所で過ごす時間は家に準じた気楽な場所であって欲しい、という思いで接してきました。このことについてはこちらの思いに沿った評価結果であったと思います。けれども事業所の体制、体裁といったものはまだ固まっていないのが実情です。1 年事業所を動かしてみたからこそ実際に即したものを発信できるのではないかと思えてきました。自己評価を通じて次の 1 年のやるべきことが見えてきたと思います。

事業所名 社会福祉法人七葉会 ころ

担当者 麻生順子